

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人神理学園  
認定こども園 しんり幼稚園

1, 本園の教育目標

豊かな自然の中で生活し 人間として望ましい成長を目指して

- ・心身ともに健康な子ども
- ・他への思いやりのある子ども
- ・いろいろなことに興味を持ち、自分らしさを発揮できる子ども

2, 本年度の重点的に取り組む目標

- 保育者の資質向上
- 自由な表現力と自己肯定感の育成
- 教職員の働き方改革を行う

3, 評価項目の達成及び取り組み状況

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果						コメント	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	評価に関する説明・意見書
1、保育者の資質向上	保育研修を継続的に実施し、指導改善に生かす。	4	公開保育を通して環境の構成や活動の支援の視点から分析し資質の向上を図る。	2.1	4	積極的に環境や教材の工夫をしたり、幼児の姿について話し合ったりするようになった。	2.8	B (2.5)	○他園への視察研修が、スピード感のある実践に繋がることを感じた。自分のペアとは、就業時間内に話をする時間が少なかった。新人保育士にわらえの会への参加が保障できるとよかった。 ○正解がないこともあるが、分からないなりの声を拾うことがあまりできなかったように思う。少人数に分かれての「話し合い」だとより声が拾えると思う。 ○不定期ではあったが、わらえの会を開催していただき、自分の知らないことを経験年数の長い先生方から聞くことで、知識が増え、得た知識を子どもたちに伝えることができた。今後は若い先生方からの発信で、知りたいことや疑問を提示していくことで、より学びが深まるのではないかと感じた。
		3	研修で学んだことを自らの保育実践に生かす。		3	学んだ内容を日頃の実践に生かすようになった。			
		2	経験年数を考慮したペアクラスを作り、相談や助言をしやすい関係性をつくる。		2	他のクラスの環境構成を見ることで、具体的な疑問や悩みなどをその場で話し合えるようになった。			
		1	園内研修で全教職員が、自分の考えを積極的に話せる雰囲気をつくり出す。		1	保育について、互いに報告したり見たりして話す姿が見られるようになった。			
2、自由な表現力と自己肯定感の育成	絵画や制作を取り入れた子どもの表現の育成	4	子どもたちが豊かな表現力を身に付け、創造的な活動に積極的に取り組むことができる。	2.1	4	子どもたちが独自の創造力を発揮し、自己表現をより深く追求できるようになった。	2.0	B (2.1)	○詩太さんをきっかけに絵に対する意識が変わった。今年の体験、経験を来年度にもつなげられるように意識することが大切だと思う。 ○絵を描く以前の段階としてフィンガーペインティングなど、自由に伸び伸びと活動する機会を増やしたらどうだろう。 ○異年齢クラスでは、詩太氏のライブペインティングから大いに刺激を受けた姿が見られた。すぐに絵具等を準備してもらえたのが良かった。一時的ではなく絵を描く絵の具を使うことへのハードルが低くなると思う。 ○子どもたちが表現した作品の展示の仕方を更に「表現したい」、「作りたい」と思わせられるように大人がどのように関わるのかを皆で考え、実践し、更に見つめ直し続けることで個々の可能性を少しでも広げ、保護者へも伝えていきたい。
		3	テーマを設定しての作品制作、グループワークでの共同制作をおこなう。		3	子どもたちが自分の感情や考えを絵画や制作活動を通じて具体的に表現できるようになった。			
		2	水彩画やコラージュ、異素材を組み合わせた制作（布、スポンジ、自然素材など）を行う。		2	子どもたちが異なる素材や技法を試し、表現の幅を広げるようになった。			
		1	子どもたちが色鉛筆やクレヨンを使って自由に絵を描く活動に参加し、基礎的な絵画技術を習得している。		1	絵画や制作活動を通じて、基本的な表現手法や素材に触れることを楽しむようになった。			

3、 教職員の働き方改革を行う	業務の効率化と教職員の働き方改革	1	日誌やラインワークスの活用を通して職員間との円滑な連携を図る。	0.7	1	勤務時間内での計画的な勤務を意識するようになった。	0.7	B (0.7)	○休憩時間を確実に明確に取得できるようになったことの利点は大きいと思われる。 ○仕事と休憩の時間を区切ることでデスクワークの時間もよりはかどり時間を確保しやすくなった。今まで時間を気にせずしていた業務もあったため、質を下げずに継続していく方法を引き続き見つけていく必要があると思う。特に行事前は時間の確保も難しい為、前もっての準備はもちろんであるが、必要なこととそうでないことの取舍選択をする必要があると思う。 ○改善策をたくさん出していただき、とても休憩が取りやすくなりました。仕事とのメリハリが働きやすいです。しかし、休憩があっても仕事量は変わらないことでもどかしさ（終わらない、帰れない）を感じる。 ○会議の時間は必ず時間内に終了するように司会者が効率的に進める必要がある。 ○基本的な業務は改善されてきているが、行事の担当が回ってくると勤務時間内に終われない。行事の見直しが必要。
		1	指導要録の記述を念頭に、5つの内容領域を視点に個人記録を毎月1回と学期ごとの保護者面談後にまとめたものを提出するようにした。		1	個人記録の様式について改善がなされ、月に1回と懇談後の提出への改善を行い、業務の負担軽減が図られた。			
		1	休憩時間を確実に取得できるように、休憩室の確保を行うことにより業務の効率を図る。		1	休憩時間を設定することで時間を意識して業務にあたる姿が見られるようになった。			
		1	研修の場所やペア会議の場所を職員室から保育室に移し、そのクラスの環境構成を見ることで、具体的な疑問や悩みなどをその場で話し合えるようにする。		1	会議の時間を確保するため、園のスケジュールを全職員で確認し、事前に書面にまとめて報告することで、時間内で有意義な会議を行うことができるようになった。			

○取組と成果に関する評価結果

A:とても良い    B:まあまあ良い    C:普通    D:よくない（要検討）

○総合的な評価

評価	理由
B	○職員の資質向上を図るために夏休みを利用して、他園へ視察研修を実施し、他園の環境を見たり聞いたりしたことで、刺激を受け、これを機に環境を見直す参考にしたり、自園の良さを再発見したりする良い機会となった。 ○絵を楽しむ子どもに育ってほしいという園長の願いをうけ、本年度は新たな重点目標として「自由な表現力と自己肯定感の育成」を掲げた。6月には「絵と詩をえがいて穏やかな時間を作る」をコンセプトに、詩や絵の創作を行う詩人・画家である詩太さんをお招きし、絵と書を融合した創作活動を鑑賞した。この活動を通して絵画に対する子どもたちの表現活動に変容が見られた。ほとんどのクラスが廊下で大きな紙の上にスポンジで虹を描く技法を模倣するなど明らかに絵に対する興味・関心は高まった。例年に比べて、保育時間に絵を描く子どもの姿は増えてきたことは自己肯定感を高める第一歩として大きな成果と考える。 ○昨年度に続き、業務の効率化・職員の負担軽減を図ることで、職員がより働きやすい職場環境づくりをめざしてきた。休憩場所や時間を確保することで職員が休憩を確実に取る意識も定着してきた。また、勤務時間内に業務が終了できるように計画的に仕事をする事も徐々に浸透したことで、仕事とプライベートをうまく分けてリフレッシュすることで、保育への意欲や余裕も生まれてきたように感じる。

4、今後取り組む重点的課題

	議題	具体的な取組方法
1	個人のねらい（個人の重点）を考え、ねらいが達成できるような保育実践の在り方、記録の取り方を考える	○日々の保育を見直し、振り返り、意見交換ができる業務時間の確保 ○定期的に、保育内容を精査・検討し、ねらいを意識しながら保育実践を心がけていく。 ○学期ごとに幼児の育ちや課題を整理し、次へ向けてより具体的な取り組み方と細かな記録の取り方を工夫する。（園内研修等を利用する）
2	園全体の業務内容の可視化と教職員の連携体制の構築を図る ～職員間のより良い連携と働き方改革を目指して～	○ 教職員が日々の業務を洗い出し、「必須業務」「見直しが可能な業務」「効率化できる業務」に分類し、取舍選択を行い、負担軽減につなげる。 ○ペアクラスの教師間の連携を基盤とし、園行事の業務にもスムーズに関わっていける教職員間の連携を深めていく。（他の学級も意識する）。 ○年間の行事や活動、日々の遊びの準備など、業務内容を月毎に可視化していく。 ○働き方改革に向けて、教職員間での業務分担や協力体制を整える。

5, 学校評価実施内容

No.	内 容	期 日
1	第1回 学校関係者評価委員会 ・委員紹介 ・本年度の重点目標の説明 ・保育参観、講評 ・火災避難訓練参観、講評	令和6年 7月12日(金) 10:00~12:00
2	第2回 学校関係者評価委員会 ・運動会参観、講評	令和6年10月26日(土) 9:00~12:00
3	第3回 学校関係者評価委員会 ・保育参観(遊戯会リハーサル) 3日(つゆくさ・ききょう) 4日(さざんか・なずな) 5日(なでしこ・あじさい)	令和6年12月3日(火)、4日(水)、5日(木) 10:00~12:00
4	・保護者アンケート実施	令和7年2月
5	園内自己評価研修 ・園内の取組総括・自己評価実施	令和7年2月1日
6	第4回 学校関係者評価委員会 ・保護者アンケート結果及び考察 ・令和6年度のまとめと評価 ・評価委員との懇談会 ・令和7年度の課題	令和7年3月8日 17:00~18:00

6, 学校関係者評価委員会の評価

- 運動会は数年ぶりの全体開催でしたが、とてもスムーズに進行されていたと思います。他部署(乳児部)の応援もあったと聞きましたが、職員の皆さんの動きも良かったと思います。開催前に皆さんで円陣を組んでいるのを見ましたが、先生方の結束力の強さを感じました。職員同士の繋がりも良い運動会に繋がると感じました。
- 遊戯会について、年少、年中、年長の縦割りの効果は大きいと感じました。年少の子どもにとって、お兄さんやお姉さんの演技の姿や待つときの態度など、良きモデルになっていた。かっこいいと感じることで、行事を通して、子どもが成長すると思います。「楽しい」ことが学びの原動力です。それは子どもだけでなく、先生自身にも大切なことだと考える。行事を通して、この子がこんなことに気づいた、興味を持った、目を輝かせた、成長できたが一番感じるのは、学級の先生だと思います。先生が楽しいと思って保育をする姿は、きっと保護者にとって信頼の一步になると思います。
- 園児数の減少が全国的に課題となっているが、しんり幼稚園の魅力ー豊かな自然環境、園庭、蔵書の多さ、おもちゃの種類が多さ等々を SNS でもっと効果的に情報発信することが保護者の選択肢になると思う。
- アンケートを通して保護者の意見を聞きとり、まとめ、改善点を検討して提起し改善する、それを実行されたことにお礼申し上げます。主幹、副主幹をはじめ職員の行動力はすごいと思います。
- 出席されている職員の人数(7名)に対して、評価委員の人数(3名)が少ないのではないかと思います。私は、幼稚園教育や運営に直接携わったことはなく、話している内容は、しんり幼稚園の実践に対して十分には的を射てないなと思っています。また、在園している保護者の代表の委員の方には、評価できる点、改善点などをもっと出していただければと思います。そのためには、「委員会の中では、この内容について、できればご意見を伺いたい」と、事前に幼稚園が聞きたい項目などを具体的に示されると、保護者の方も意見を出しやすいのではないかと思います。
- 幼稚園教育や運営に関して、専門的に意見を伺える委員さんがおられれば、更にこの委員会の内容が深まるのではないかと思います。

学校関係者評価委員(学童保育クラブ施設長) \_\_\_\_\_  
 学校関係者評価委員(保護者会会長) \_\_\_\_\_  
 学校関係者評価委員(どんぐり会【父の会】会長) \_\_\_\_\_

委員会実施日令和7年3月8日